

# 愛兒の爲に語る

——或る母の會に於ての講演を抄録して——

中 村 楠 雄

□

白金も黄金も玉も何せむに

まされる寶子にしかめやも

と歌にもあります通り、この世に子供程大切な寶はない筈であります。然しこの大切な寶をも

玉磨かざれば光なし

人學ばざれば智なし

とか申す通り、十分な手入れを怠つた時には、所謂寶の持ちくされて、全く台なしにしてしまふかと思ふのであります。

吾々の不注意から、さうした不肖な子供を拵へたなら、子供本人の不幸、吾々親の悲しさは勿論

の事、世間に對しても、國家に對しても、實に申譯のない次第であります。

ひるがへつて良い子を持つた幸福、それは親として筆紙に盡し難い喜ばしさであると共に、本人にとつても、國家にとつても、此上もない祝福であります。

繰り返し申します。持ちたいものは良い子寶であります。

□

親として良い子を持ちたいといふ希望のある事は、何時の時代も變りない事でせうが、殊に近頃の人々には、はつきりとそして一層強く、良い子

を持たねばならぬと云ふ自覺が起つて來たかのように考へられます。

それで此の子供の教育といふ事に就ては、餘程興味を持ち、熱心になり、研究的になつて參つた様に存じます。

と申しますのは、或は育児法について、或は幼児教育法について、或は童話教育について等と子供に教育に關する家庭向の書物が、以前に比して中々多く出版され、然もそれらが相當歡迎されてゐる事等もこれを證する一つではありますまいか。

所がこゝに一つ強く私に興味を覺えさせた事があります。それはもう二三年前になるかと思ひますが、私の關係してゐました保育會で、幼兒に關した展覽會を開催仕様かと云ふ議がありまして、當時丁度大阪市の某百貨店で、愛國婦人會支部主催で「母と子の爲めの展覽會」が催されてゐましたので、都合によれば、それをすつかり借用する

つもりで、私は交渉に行つたのであります。其の時其の百貨店の係の方のお話の一節に、

「近頃は客引策として店内で、色々の催しものに就ても、子供の教育とか、子供の生活とか、何か子供に就ての事を多くやらねば駄目である。他の催しでは子供の事に關しての様に客を吸收出來ぬ。當店などもなるべく此の方針で進むつもりであるが、近くまた子供の寫生大會をやりたいと思つてゐる」

と云ふ意味の言葉のあつた事であります。これはよく近來の人心の傾向を物語つてゐると思ひます。

□

朱に交れば赤くなる。

簞の中のよもぎは自ら直し。

と云ふ様な言葉がありますが、これらは何時知らぬ間に吾々は其の環境の力に支配されると云ふ事

を意味したものと存じますが、これが分りやすい説明材料はあの孟母三遷の教でありませう。餘りにも有名な話してありますから、皆御存じの事と思ひますが、話の行きがかう上概略を申上ますなら、

昔支那の大學者に孟子と云ふ方があつたが、其の母は孟子の幼時其の住場所を三回變へた。それは前二回はどうもよい場所でなかつた爲め、子供が悪いまねをして困る、これでは何とかせねばと考へた末、第三回目に住んだのは學校のそばであつたが、それから本を読むまねばかりしてゐる、これならば結講と云ふので安心してそこに住むことになり、遂にあの孟子を出す事になつたと申すのであります。

それからこれは近いお話ですが何時でしたか私は聖公會の講演會を拜聴に出ました時、早川喜四郎氏のなさつたお話の一節です。同氏のお嬢さん

が三才位の頃、御飯を食べる時、妙に口のあたりを手をやつて變な手つきをしてから頂く事に、ふと氣がつかれたのであります。

これはおかしい、どうも不思議だと思つても原因は分らない。所がよく／＼考へて見ると、同氏の友人の方に卜部徳三郎（文字は違つてゐるかも知りません）氏とか申される方があられて、二十日程お宿りになつた事があるのださうであります。其の方は鐘鬼様の様な髯をはやして居られて、御飯を召しあがる前にはキツトそれを撫てあげる習慣を持つて居られるのださうであります。

でお嬢さんの其の不思議な手つきは、つまりそれから來てゐるのだと云ふ事が分つたのであります。

そして……口で言つてもまだ分らない。聞さわけの出来ない小さい子供達の教育程むづかしいものはない……と云ふ言葉がありました。

も一つ面白いお話があるのです。それは教育に熱心な或るお醫者さんから伺つたのですが、其の方のお子さんの中の一人の方が、ずっと前某幼稚園に行つてゐられた時の事です。幼稚園へ行く様になつてから、歸つて來るとよく幼稚園事をし遊ぶ様になつたさうであります。そして自分が先生になると、きつと時々手を膝にしてコクリ、コクリとやるのださうです。

これはどうも變だ、どういふつもりだらうつて色々考へたが分らない。では一度幼稚園へ行つて様子を見て來やうと云ふので、或る日そつと參觀に行つたのださうであります。親を離れて先生とではどうしてゐるだらう。元氣よくしてゐるだらうか。あの内辨慶が先生の所では、しほ／＼してゐるのではなからうか。といふ心づかひから、先生への御挨拶は後廻しとして、そつと影にかくれて見てゐたのださうです。

するとどうです。先生は始め何かおつしやつてゐられたが、しばらくすると手を膝にしてコクリ、コクリとやり始められたのです。ハハア成る程!! とうなづいて戻つて來た事ではあつたが、先生もうつかり出來ませんなあ、といふ様なお言葉がありました。

もつとも當時この先生は家庭の主婦として、また家庭の事情上非常に多忙な生活にあつた爲め、誠に無理のない事ではあつたでせうかと、附加へて申されてはゐました。

さて皆さん、この様に一體小さい小供はよくまねるものであります。只わけもなくまねるのであります。まだ良心の判斷力に乏しい時代でありますから、すべて盲目的にまねる傾向があります。

これが心理學上で申します模倣性に寄るのであります、人間のものつ大いに注意をせねばならぬ心の働きの一つであります。

實はこの模倣性があつてこそ、幼兒は種々物を學んで伸びて行くのであります。それ故この模倣性即ちまねをする、と云ふ事は大いに善用し、利用しなくてはならぬのであります。これが子供の教育、特に幼兒の教育なのであります。

かの孟子のお母さんが、この模倣性を本當によく利用されたのでありまして、この様によき模倣をさせる事に常に工夫をこらしてやらねばならぬと存じます。

所が現今の家庭の様子を見ますのに、子供だから知るまい、分るまい、感じまいなどと、甚だ氣樂に考へて、この何はなしにまねる、盲目的にまねる、といふ重要にして且つ危険な心の働きを持つてゐる事を忘れる場合が多くありはしまいか。

そして教育の中心は決して學校でも、幼稚園でもない、全く家庭であるといふ事は、今更私から申上げるまでもない事と存じますが、其のまた家

庭の中心は両親であり、且つ智識と經驗に乏しい子供は其の行爲の基準を全く大人に求めてゐるとしますならば、親たる者の責任は實に重大であると言はねばなりません。

この何はなしにまねる、盲目的にまねる幼兒時代こそ人間として、一番大切な土台を築く時なのでありまして、この時代の教育の適否は其の人の一生を支配することさへ學者は申して居ります。

して見ますと子供をよくするも惡くするも、主として親の努力如何による事に歸すると考へられます。小さい子供を持つて居られる親達は本當に眞劍にならねばならぬと思ひます。どうか不用意の間にも子供に惡い影響の與へない様にと、常に子供の周圍を清く美しく保つてやる様に不斷の緊張を致されたいものと存じます。